

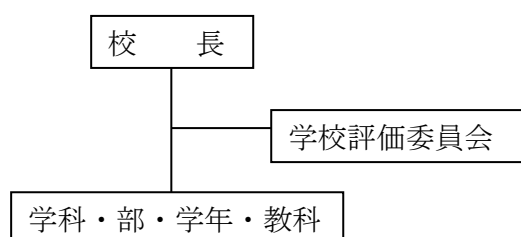
I 自己評価の概要

1 『学校経営・運営ビジョンについて』

「教育目標」と「我等の信条」が本校の『学校経営・運営ビジョン』の根幹となっている。これを実現するために4つの努力目標を設定し、さらに努力目標の実現のための具体的な下位目標を設定している。

前年度の分掌ごとの反省や学校全体として取り組むべき課題をもとに、年度初めに校長により『学校経営・運営ビジョン』が示される。

2 校内組織体制について



各学科・各部・各学年・各教科等の実践を組織横断的に評価するために、校務分掌組織とは別に学校評価委員会が組織されている。

3 自己評価年間計画について

月	学校評価委員会の活動	学校評議員の活動
4月	「学校経営・運営ビジョン」の策定	
5月	第1回学校評価委員会	
6月		
7月		第1回学校評議員会
8月		
9月		
10月	第2回学校評価委員会 アンケートの作成	
11月		
12月	アンケートの実施・アンケートの集計 アンケートの分析	第2回学校評議員会
1月	委員による事前分析 第3回学校評価委員会	
2月	学校評価のまとめ 「自己評価実施報告書の作成」	第3回学校評議員会
3月	次年度スクールビジョン作成に向けた提言	

II アンケートの概要

1 実施時期、実施方

教員	11月24日配布12月9日〆切	無記名	選択方式
生徒	11月25日配布12月9日〆切	記名	選択方式
保護者	11月25日配布12月9日〆切	記名	選択方式

- ・今年度も昨年度同様アンケートによる評価は1回のみ、11月下旬に実施した。
- ・アンケートは生徒、保護者、教員を対象に、それぞれの設問数16、15、15として調査をした。設問1～12はビジョンに示される項目を評価する内容であり、設問13～16はビジョンに関わらない学校全般を評価する内容とした。

2 アンケートの回答数

対象	今年度のアンケート			昨年度のアンケート		
	対象数	回答数	割合	対象数	回答数	割合
生徒	712	703	98.7%	707	646	91.4%
保護者	712	541	76.0%	707	425	60.1%
教職員	76	70	92.1%	70	65	92.9%

- ・昨年度と今年度の回答数を比較すると、生徒は7.3%の増。保護者は約16%増。教職員は、部活動での長期出張、時間講師への呼びかけ不足もあり100%にはならなかった。
- ・[来年度に向けて]昨年度の反省から、保護者へは一斉メール等を活用して協力を呼びかけた結果、回答数が大幅に増えた。直接生徒と関わる担任からの呼びかけが、回答率向上に大きく左右される。引き続き、回答数100%にすべく、丁寧な呼びかけを実施したい。

3 評価基準について

- ・それぞれの項目の達成度を1～4の評価基準で回答を求めた。4段階評定としたのは、中間回答（どちらでもない）の層を、肯定的評価または否定的評価のいずれかに振り分けるためである。
- ・回答4と3の合計を肯定的評価、2と1の合計を否定的評価に分けて、アンケート結果を評価考察した。

4 アンケートによる評価のまとめ

アンケート結果の分析

努力目標（1）「学習意欲の育成」に関して

《データ》 ※（ ）は昨年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--|---------------|
| 1 本校では、ものづくりをとおして、知識、技術・技能を修得できると思いますか | 98.0% (98.2%) |
| 2 授業方法は工夫されていると思いますか | 85.9% (91.5%) |
| 3 授業に積極的に取り組むようになりましたか | 87.8% (90.2%) |

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|---|---------------|
| 1 本校では、ものづくりをとおして、知識、技術、・技能を修得できると思いますか | 98.9% (98.8%) |
| 2 授業の参観や、またはお子様の話から、本校の授業はわかりやすく展開されていると思われませんか | 82.8% (83.9%) |
| 3 お子様が学習している科目の内容や評価のしかたについてご存じですか | 59.3% (56.4%) |

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--|---------------|
| 1 本校ではものづくりをとおした知識、技術・技能が修得できる体験型の学習の充実を図ることができていますか | 92.9% (95.4%) |
| 2 わかりやすい授業をするために、授業の工夫を行っていますか | 94.3% (95.4%) |
| 3 学ぶ意欲を引き出す評価の工夫・充実を図っていますか | 90.0% (84.6%) |

《考察》

努力目標（1）「学習意欲の育成」に関しては、昨年同様いずれも高い評価が得られている。

設問1の「ものづくりをとおして知識・技術・技能を修得できる」とした回答は、生徒・保護者で98%を超え特に高い評価を得ている。教員の評価は、昨年度より若干下がったものの92.9%とやはり高評価である。本校の特徴である「ものづくり教育」が生徒・保護者に浸透していると考えられる。

設問2の「授業方法の工夫について」は、教員は肯定的回答が94.3%と高い評価をしているのに対し、生徒（85.9%）・保護者（82.8%）は教員よりも10ポイントあまり低くなっている。さらに生徒の肯定的回答は、昨年の91.5%から今年は85.9%に下がった。教員は、常に生徒の実態実情にあわせた授業の工夫が必要である。具体的に、分割授業の取組など考える必要がある。

設問3の教員の「生徒の意欲を引き出す評価の工夫を図っているか」の肯定的回答は、昨年の84.6%から今年は90.0%に上がっているが、生徒の「授業に積極的に取り組むようになったか」の設問では逆に2.4ポイントほど下がっている。ここでも教員と生徒との認識のギャップがあり、生徒が自ら学ぼうとする姿勢づくりが重要である。家庭学習の習慣化など工夫が必要である。保護者の「科目の内容と評価方法を知っているか」については、例年肯定的回答が他の設問に比べかなり低くなっている。生徒が、家庭でしっかりと話す機会となるような素材の提供が必要である。

努力目標（２）「職業観の育成」に関して

《データ》 ※（ ）は昨年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|---|---|---------------|
| 4 | 企業見学・各種講習会・講演会・進学課外などとおして、1年次から自分の進路を考えるようになりましたか | 83.4% (85.6%) |
| 5 | インターンシップなどは、将来の職業を考える上で有益だと思いますか。 | 94.2% (96.3%) |
| 6 | 講習会や課外指導に参加するなど、資格取得や検定合格のための努力をしていますか。 | 78.9% (81.3%) |

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|---|---|---------------|
| 4 | 企業見学・各種講習会・講演会・進学課外などとおして、1年次から進路意識を啓発するための指導が行われていると思いますか。 | 95.6% (93.8%) |
| 5 | インターンシップなどは、お子さまが進路実現を図る上で有益だと思いますか。 | 95.7% (95.7%) |
| 6 | お子さまは、資格取得や検定合格のために、講習会や課外指導に参加するなどの努力をしていますか。 | 81.4% (82.1%) |

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|---|--|---------------|
| 4 | 企業見学会・各種講習会・講演会・進学課外などとおして、進路意識の早期啓発を促すことができていると思いますか。 | 97.1% (96.9%) |
| 5 | インターンシップをおして、生徒のキャリア教育の充実を図ることができていると思いますか。 | 94.3% (84.6%) |
| 6 | 各種資格検定合格のための支援体制は十分だと思いますか。 | 77.1% (67.7%) |

《考察》

努力目標（２）「職業観の育成」に関しても、概ね高い評価であった。

設問4の生徒の「自分の進路を考える様になったか」については学年間の差が大きく、肯定的評価が1年生は86.0%、2年生は90.2%、3年生は73.7%であった。3年生には、進路決定後のアンケート実施だったため設問に答えにくかったのかもしれない。また、生徒全体の評価も、保護者・教員に対し10ポイント以上低く、様々な機会を通して進路意識の啓発や指導が大切である。

設問5の「インターンシップなど」は、生徒・保護者・教員ともほぼ95%が肯定的で、インターンシップの効果が共有されている。特に生徒・保護者では肯定的回答のなかでも『特にそう思う』が約60%に達し、教員の約40%を大きく上回っている。本校の特長を生かしたインターンシップの取組など検証しながら取り組む必要がある。

設問6の「資格検定への努力や支援体制について」は、生徒・保護者・教員とも他の設問より評価が低くなっている。また、肯定的回答のなかでも『特にそう思う』（約30%）より『少しそう思う』（約50%）が多くなっており、生徒の取り組みや教員の支援体制のより一層の充実が求められる。教員の「各種資格取得のための支援体制」の評価は77.1%ながら昨年度より10ポイントあまり改善している。さらに教員が意識を高くし、生徒の資格取得への意欲向上を導きたい。また、部活動との両立もあり、課外指導だけではなく自宅で学習出来る支援も継続して必要である。

努力目標(3)「社会性の育成」に関して

《データ》 ※ () は去年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|------------------------------------|---------------|
| 7 自律した生活を送り、校則や社会のマナー・ルールを守っていますか。 | 94.6% (96.0%) |
| 8 環境美化や省エネを心がけていますか。 | 80.7% (85.5%) |
| 9 部活動に積極的に参加していますか。 | 82.4% (81.7%) |

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--|---------------|
| 7 お子さまは、基本的な生活習慣が確立され、校則や社会のマナー・ルールを守っていると思いますか。 | 95.6% (93.9%) |
| 8 お子さまは環境美化や省エネに心がけていますか。 | 75.0% (74.7%) |
| 9 お子さまは部活動に積極的に参加していますか。 | 82.5% (84.0%) |

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--|---------------|
| 7 HR、服装頭髪指導、登校指導、部活動をとおして、社会性・規範意識や基本的な生活習慣を身につけさせる指導に力を入れていますか。 | 92.9% (89.2%) |
| 8 校内美化、省エネの推進、実習での服装指導などとおして、環境と安全に対する意識を高める指導に力を入れていますか。 | 80.0% (86.1%) |
| 9 生徒が部活動を通して社会性を身につけ、自己実現を図ることができるように配慮していますか。 | 85.7% (92.3%) |

《考察》

努力目標(3)「社会性の育成」に関しても、全体としては高い評価であった。

設問7の「社会のマナーやルール」への肯定的評価は、生徒と保護者が約95%、教員が約93%と非常に高い。詳しく見ると『特にそう思う』は生徒全体が48.1%、1年生40.7%、2年生52.8%、3年生50.9%で上級生の意識が高い。保護者の『特にそう思う』は47.5%と高い。教員の肯定的評価は4ポイントほど上がっているが、『特にそう思う』は去年の41.5%から34.3%と逆に下がっている。生徒・保護者の高い意識を継続するようにしっかりと支援する必要がある。

設問8の「環境美化・安全・省エネ意識」も概ね良好である。だが『特にそう思う』は、生徒・教員が30%以上なのに対し保護者は18.5%と、生徒の家庭での姿が見て取れる結果となった。環境美化・省エネの意識を身につけさせる継続的な指導が必要である。家庭向けにHPやPTA総会・方部会等を利用して、継続した呼びかけが大切である。

設問9の「部活動の積極的参加」については、生徒の82.4%が肯定的評価である。さらに56.0%の生徒が『特にそう思う』と答えており、生徒の多くが部活動に積極的に取り組んでいる様子がうかがえる。一方、17.7%の生徒が否定的な回答だった。資格取得の勉強、遠距離通学などで部活動に積極的に参加出来ない生徒も含まれると推測される。少数ではあるが、明確な目的意識を持たない生徒に対して、本校の努力目標である「部活動をとおし社会性を身につけ自己実現を図る」ためにも部活動の活性化をさらに進めたい。保護者の肯定評価は82.5%と生徒の評価とほとんど同じであるが、『特にそう思う』は62.8%で、生徒より7ポイントあまり高い。保護者の部活動への期待度が高いことが伺える。

努力目標（４）「地域との連携推進」に関して

《データ》 ※（ ）は今年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|----|---|---------------|
| 10 | 学校からの配布物をきちんと家族に渡していますか。 | 81.1% (83.6%) |
| 11 | 企業の技術者による講義や研修などに積極的に取り組んでいこうと思いませんか | 91.2% (79.1%) |
| 12 | 本校の教育活動・学校運営の状況は、授業参観や研究発表、学校評価などによって、外部に適切に発信されていると思いませんか。 | 82.8% (85.0%) |

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|----|---|---------------|
| 10 | 学校からの配布物、ホームページ、一斉メール、PTAの各種会合などによって、知りたい情報を得ることができていますか。 | 82.6% (78.9%) |
| 11 | 本校が地元企業との連携をいかした取り組みなどを行っていると思いませんか。 | 87.6% (85.6%) |
| 12 | 本校の教育活動・学校運営の状況は、授業参観や研究発表、学校評価などによって、外部に適切に発信されていると思いませんか。 | 79.7% (84.2%) |

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | | |
|----|---|---------------|
| 10 | 学校からの情報はHPや配布物、各種会合などをとおして、有効に発信されていると思いませんか | 76.8% (75.4%) |
| 11 | 「地域産業連携事業」など外部事業に関わる校内の協力体制は整っていると思いませんか。 | 79.7% (73.9%) |
| 12 | 本校の教育活動・学校運営の状況は、授業参観や研究発表、学校評価などによって、地域・保護者に適切に発信されていると思いませんか。 | 69.6% (69.2%) |

《考察》

努力目標４「地域との連携推進」については、各設問70%から90%と概ね肯定的評価だったが、先の設問と比べると評価がやや低い。特に教員の評価が低くなっている。

設問10の、生徒の「学校の配布物を保護者まで届けているか」は81.1%であるが、『特にそう思う』は35.4%と低く、さらに否定的回答が約19%あり、**全ての配布物が保護者まで届いてないのは問題である**。生徒には配布物の手渡しの徹底の呼びかけと、保護者へはホームページや会合を通じてどの様な情報が得られるか等の説明も必要と思われる。

設問11の「産学官連携の推進」の状況を問う設問は、生徒・保護者・教員のすべてで昨年を上回った。取り組みの成果が少しずつ表れている結果であると考えられる。生徒の評価は91.2%と今年の79.1%から大きく上がった。これは質問内容を昨年よりわかりやすくしたことも影響の一つかもしれない。（「外部講師による研修」を「企業の技術者による講義や研修」に変更）

設問12の「学校運営や教育活動の公開」についての状況を問う設問では、肯定的評価は生徒・保護者・教員、82.8%・79.7%・69.6%で、その中の『特にそう思う』では27.3%・26.1%・14.5%と他の設問に比べかなり低くなっている。従来から行われているPTA方部会や学校開放、課題研究発表会など学校の取組を知ってもらう取組を行っている。この取組を継続しながら、新たな手だてを提案実施することも検討すべきである。

(5) 「学校全般について」に関して

《データ》 ※ () は去年のパーセンテージ

○生徒アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--|---------------|
| 13 本校では教育相談部やスクールカウンセラーが生徒や保護者の相談活動を行っていることを知っていますか。 | 60.2% (62.2%) |
| 14 本校のホームページをみたことがありますか。 | 49.4% (45.5%) |
| 15 一斉メールに登録していますか。 | 46.2% (49.3%) |
| 16 本校に入学して良かったと思いますか。 | 93.9% (96.6%) |

○保護者アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|-------------------------------------|---------------|
| 13 本校の教育相談部やスクールカウンセラーを活用したいと思いますか。 | 50.7% (54.7%) |
| 14 保護者としてPTA活動などの学校行事に参加されていますか。 | 33.5% (40.1%) |
| 15 お子様を本校に入学させて良かったと思いますか。 | 97.4% (97.9%) |

○教員アンケートの各設問と肯定的評価の割合は以下の通りである。

- | | |
|--------------------------------------|---------------|
| 13 全教職員の共通理解のもとで生徒指導には取り組んでいると思いますか。 | 58.6% (58.4%) |
| 14 日頃、生徒と向き合う時間は十分確保できていると思いますか。 | 61.4% (73.8%) |
| 15 校務分掌はバランスよく仕事が割り振られていると思いますか。 | 42.9% (32.3%) |

《考察》

学校全般についてのアンケートは、生徒・保護者と教員との設問の内容に関連性は少なくなっている。それぞれ昨年までと同じ設問であるが、他の設問に比べ『特にそう思う』、『少しそう思う』の割合が低くなっている。設問ごとに分析してみると、

教育相談、スクールカウンセラーは、生徒の置かれた状況が、アンケートに大きく反映する。否定的な回答が約4割であるが、一部の生徒かもしれないが、教育相談部は精神的な安らぎや相談の場として、今後もさらに重要性を増すと思われる。「ホームページ」「一斉メール」「PTA活動」の設問は、肯定的回答がいずれも5割以下で低い。特に保護者のPTA活動への参加は33.5%で特に低い。保護者の働く環境など「参加できない」ことも考えられる。これからも、学校側から工夫を凝らした呼びかけが必要であろう。「入学して良かった」は生徒、保護者とも非常に高い評価をしており、本校のものづくり教育活動に期待していただいている結果と受け止めたい。

教員対象の設問も評価は低く、特に「生徒指導」に関しては58.6%である。生徒指導は全教職員が一丸となって取り組むべきことである。再度、確認しながら指導していくことが必要である。

生徒と向き合う時間の確保は、昨年よりも12ポイントも下がっており、多忙感を感じる教員が多くなっているようだ。最優先なことは何か、再認識して取り組む必要がある。「校務分掌のバランス」については、昨年度より10ポイント改善している。今後も、適切な職場環境作りに継続して取り組む必要がある。

Ⅲ 広報の概要

アンケートの結果については、3月に文書で生徒・保護者へ公表する。
(HPに掲載されていることを文書・一斉メールで保護者に案内)

Ⅳ 次年度へ向けて

総合的には本校の教育は生徒・保護者の期待に応えて成果をあげていると判断する。更に実りのある教育活動をするために、生徒、保護者、教職員へのアンケートの結果を踏まえ、適切に分析検証し、改善に向けた取組を継続して求めていく必要がある。(アンケート結果の分析と考察を参照)

最後に、教職員が一丸となって「ものづくり教育」の素晴らしさを、学ぶことの楽しさを生徒たちに熱く伝えることで、生徒も保護者も教員も明るく・楽しく・積極的に活動していくことが出来ると思われる。さらには、外部と連携して、実践力を身につけさせる教育も重要である。専門高校の特徴を生かし、教員が一丸となって「社会に貢献できる人材・地域が必要とする人材」を育てていく教育活動が今後も必要である。